

IV-57

秋田市における自主防災組織の特徴と行政の支援状況

秋田大学 学生会員 ○佐藤 陽介

秋田大学 正会員 木村 一裕

ウヌマ地域総研 正会員 藤田 勝

秋田大学 フェロー 清水浩志郎

1. はじめに

阪神・淡路大震災以後、いかに安全・安心して暮らせるかという「安全・安心のまちづくり」の重要性が再認識された現在、その中でも自主防災というものが特に重要視されている。秋田市における自主防災組織の多くはいわゆる「町内会読み替え型」であるか、地域内のコミュニケーションが希薄になりつつある現代社会において、今後「町内会読み替え型」の自主防災組織が十分に機能するかは疑問である。

そこで本研究では、秋田市を事例に自主防災組織や町内会の実態を把握したうえで、活発な組織の特徴を抽出し、自主防災活動活性化への方策を検討することを目的としている。

2. 行政と住民

(1) 自主防災組織に対する行政の支援状況

秋田市防災対策課の自主防災組織に対する期待度は非常に高い。未組織町内への組織結成の呼びかけや、自主防災組織への指導も定期的に行っていることがその現れである。自主防災組織を結成した町内会への支援として、資金ではなく災害時に必要となる資材・機材を交付している。

また災害時の備えとして、災害監視カメラを市内3ヶ所に設置、日本赤十字秋田支社への救護・炊き出しの協力要請などバックアップ体制の整備にも努めている。

(3) 自主防災活動と町内会活動

現在、秋田市内には919の町内会が存在しているが、

そのうち自主防災組織を結成している町内会は190しかない。その中でも積極的に自主防災活動をしている4町内会へのヒアリング調査を行った。その結果をまとめたものが表-1である。

これらの組織によって主に行われている自主防災活動の中には、煙中歩行訓練、子供主体のパケツリレーや消火器を使用した消火訓練、避難訓練など実践的な活動が多い。特に神田町内会自主防災隊については、救急救命講習会や防災マップの作成など、より実践的な活動が行われている。さらに、犯罪による被害も身近な災害として捉えており、護身術講習会を開催し、地域住民も楽しみながら活動に参加している。これらの組織の共通点として、自主防災活動だけでなく町内会活動を積極的に行っていること、自分の町内会の危険箇所や周辺環境を考慮した活動構成をしていること、強力なリーダーシップを発揮する人物が存在していることが挙げられる。

3. 活発な自主防災組織の特徴

ヒアリング調査

で得られた結果を元に秋田市の全町内会を対象にアンケート調査を行った。

調査概要と比較分析の概要を表-2、図-1に示す。分析では3種類以上の自主防災活動を行っている町内会を「活発な組織」とし、それ以外の町内会を「非活発な組織」と定義した。

表-2 アンケート概要

実施日	平成14年2月、3月
対象	秋田市の全町内会の会長(919町内)
配布数	919票
有効票数	530票
回収率	57.7%

表-1 ヒアリング調査結果

ヒアリング調査項目	牛島西4丁目自警団	新屋敷駅前町内会自主防災会	高梨台自衛消防隊	神田町内会自主防災隊
活動内容	自主防災 ・消火器の販売 ・年2回の手押しポンプを使った消火訓練	自主防災 ・消火器やバケツを使った消火訓練 ・避難訓練 ・年2回避難場所の確認	自主防災 ・煙中歩行訓練 ・パケツリレー ・年3～4回の消火・防火訓練や指導	自主防災 ・避難場所となる空き地の買収 ・防災マップの作成 ・救急救命講習会 ・護身術講習会 ・防災避難訓練
町内会		・ゴミ清掃、ゴミ箱の作成・管理、回覧、花壇の除草、道路にストップマークを書くなど	・町内会会務報告を毎月回覧 ・盆踊り、除草作業	・全戸参加の除雪作業 ・町内会単独の運動会 ・側溝の泥上げ
リーダーシップ	町内会長と自警団のメンバー	町内会長	町内会長と役員	町内会長
参加状況	参加人数 参加者は20人程度		消防隊員は20人でそのうち9人は高齢者	昨年の訓練には200人以上が参加
参加者の属性	自警団のメンバー	高齢者、主婦、子供だけで若い男性は参加しない	・高齢者が多い ・高台にあることから住民の防災への関心は高い	主婦や高齢者だけでなく、子供や若い人々も参加
問題点	昼間働きに出る人が多く、担い手の問題がある	・役員の高齢化 ・若い人は土日の出勤が多く、活動に参加してもらえない	・若い人が参加しない、できない状態	高齢者には市の指定避難場所は遠すぎる
その他	ポンプ所有		ポンプ所有	町内会を法人化

(1) 自主防災組織の特徴抽出

自主防災活動が活発な組織の特徴を抽出するために、想定している災害、活動状況、参加率などをカテゴリとして数量化Ⅲ類を用いた。図-1はカテゴリプロットを示している。この図で、「町内の災害弱者は全て把握している」、「地域内の企業と何らかの連携、交流をしている」が第1軸の正の位置に布置されたことから、これを『地域コミュニティ発達度』と解釈した。また、「町内に危険箇所がある」が第2軸の正の位置に布置されたことから、これを『危機意識度』と解釈した。

表-3 数量化Ⅲ類による軸解釈

	軸解釈	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸	地域コミュニティ	0.1549	8.98%	8.98%	0.3935
第2軸	危機意識度	0.1399	8.11%	17.10%	0.3740

また、図-1の楕円で囲まれている部分を見ると、活発な組織が第1軸の正の位置に布置していることがわかる。このことから活発な自主防災活動には、防災に対する危機意識よりも、地域コミュニティの発達が大きく関連していることがうかがえる。

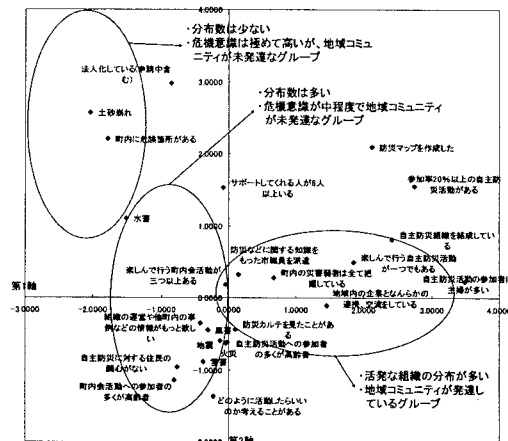


図-1 カテゴリプロット

(2) 活発・非活発組織の比較

図-1には防災カルテを見た経験、防災マップの作成、サポート人数、災害弱者把握率、世帯数、町内会形成時期を比較した結果を示している。防災カルテを見た経験から、活発な組織の方がより防災に対して興味を持っていることがわかる。サポートしてくれる人物の存在も多く、町内に関する情報も多く持っていることがうかがえる。また、世帯数を見るとわかるように、町内会の規模も比較的大きいものが増えてきている。町内会形成時期も活発な組織の方に新しい町内会が多い傾向が見られる。

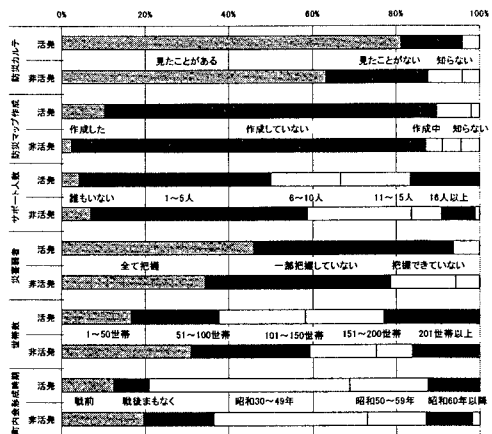


図-2 活発な組織と非活発な組織の比較

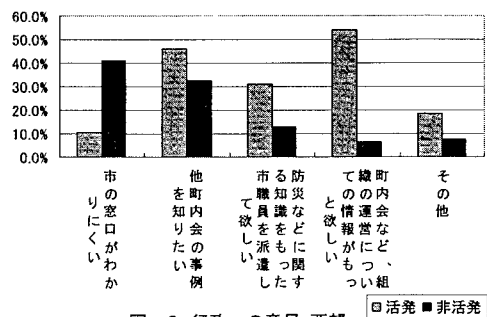


図-3 行政への意見・要望

また別の分析では、自主防災活動が活発な町内会においては、町内会活動も活発であり、楽しんで行われている傾向にあることがわかった。

図-3は行政への意見・要望を比較分析したものである。市の窓口がわかりにくいという項目は非活発の方が圧倒的に多くなっている。この理由として窓口利用の経験の違いが考えられる。それ以外の項目については活発な組織の方が多くなっている。このことから、町内会や防災についての知識や情報を欲しがっていることが考えられる。各活動や組織の運営に対する積極的な姿勢がうかがえる。

4. おわりに

活発な自主防災組織の特徴をいくつか抽出したが、特に強力なリーダーの存在、自主防災活動を楽しんで行うこと、地域コミュニティを活性化することが自主防災活動を活性化させるために重要であることが考えられた。

今後の課題として、さらに多様な特徴の抽出と、より具体的な方策の検討があげられる。